



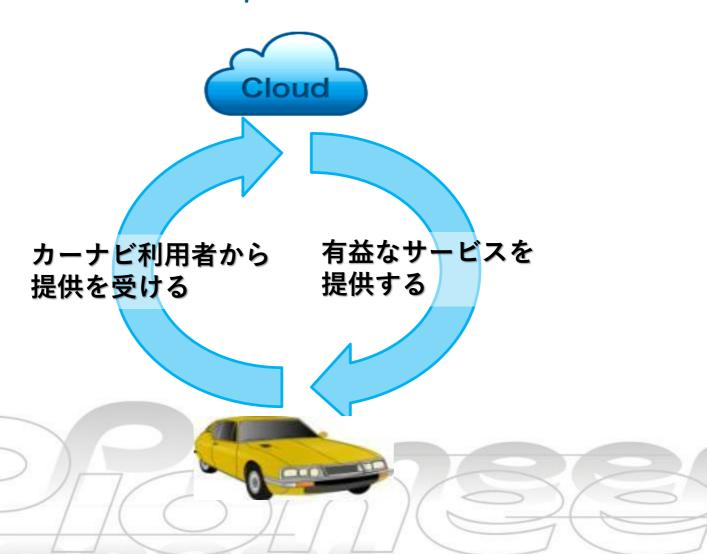
『故地点は移動する』…

ご存じですか?

急減速多発地点データを活用して 事故を減らしましょう



SmartLoop プローブデータ





☆<u>「通行できた」ビッグデータを共有し、</u> 復旧·復興に活用

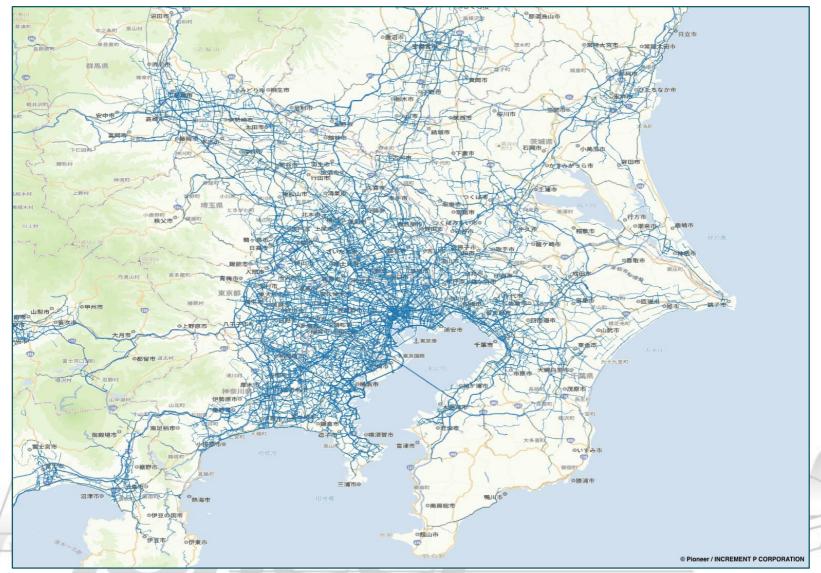




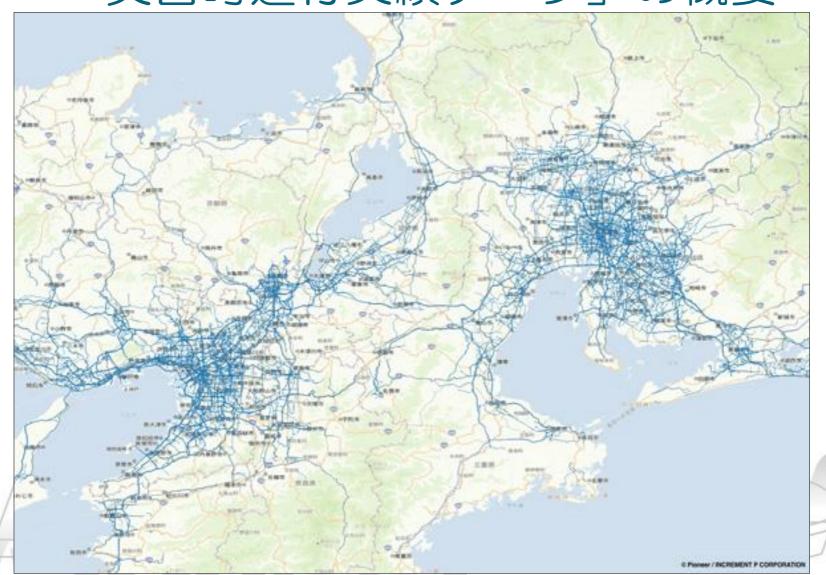
☆ 刻々と変わる「通れない」「通れるようになった」 を的確に反映













「災害時通行実績データ」の特長

- ①災害の発生の有無に寄らず、1時間毎に通行実績データを生成。
- ②防災・減災、復旧・復興を使用目的とする限り、災害時・平常時、災害の規模、災害の種類を問わず活用可能。
- ③日本全国の道路をカバー。
- ④プライバシー保護のため、3台以上の通行実績が確認できた道路を抽出。
- ⑤ 交通規制や渋滞状況を表示できる地図サービスに簡単に重ねて表示可能。

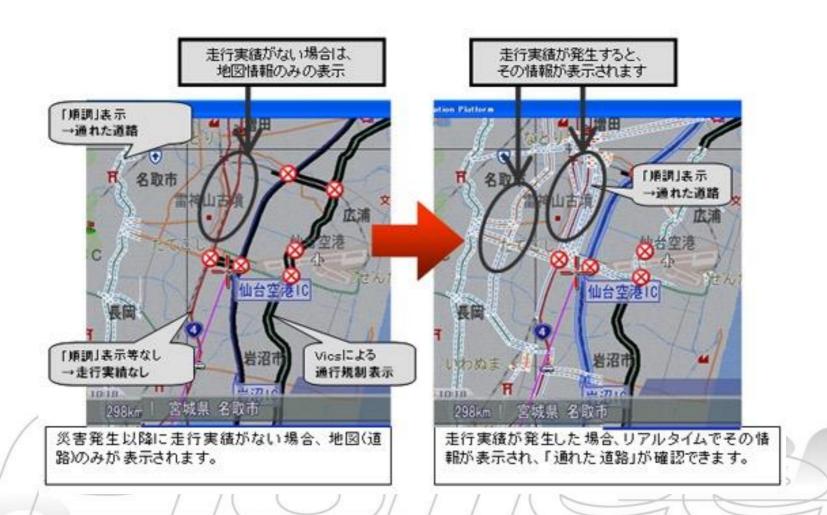


通行実績データの仕様

データ形式	KMZ(KML形式のファイルをZIP圧縮) KML(Keyhole Markup Language)は、Google Earthによって広められた XML形式
ファイル構成	全国1ファイル
データ仕様	ファイル1:1時間毎に過去1時間分を集計 ファイル2:ファイル1に入らなかった追加データの集計
データ生成 ルール	3台以上の通行実績



通行実績データ活用





想定される利用目的/形態

- ・BCP支援システムでの利用
- ・各種配送・移送管理システムでの利用

- 平常時:
 - 防災・減災力を高める目的で日頃から、道路環境への意識を高めたり、訓練に活用
- 災害時:
 - 復旧・復興の効率を高める目的で各種機能によって参照 される



END

